

- ・「気候変動問題」「エネルギー問題」に対応するためには製品から排出されるCO₂排出低減が最も重要と考え、新たに2020年を目標年とした「2020年製品CO₂低減目標」を策定しました。
- ・2020年に向けては、これまでの方向性を継承しつつ、製品燃費・CO₂燃費規制の強化など社会の要請の高まりを受け、それに先駆ける低炭素技術の更なる革新と、その普及拡大を加速していきます。

2020年製品CO₂低減目標(2000年比)



NC750S



Accord PHEV



HLS2511

Hondaの製品から
排出される
CO₂の全世界平均値

30%低減
g/km当たり

30%低減
g/km当たり

30%低減
kg/1時間当たり

2014年度 製品使用時のCO₂排出量原単位



2000年比
-33.7%

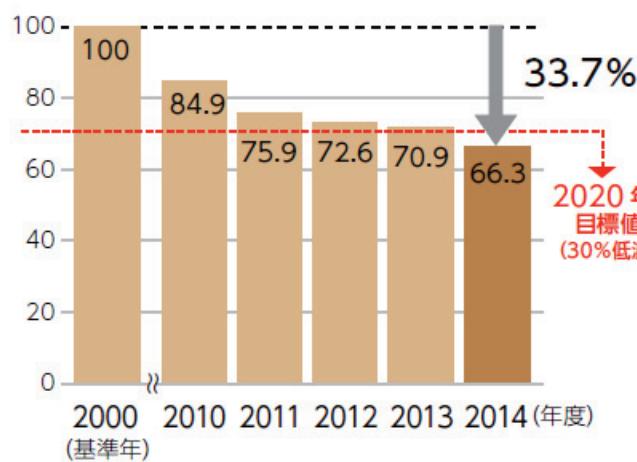


2000年比
-20.8%

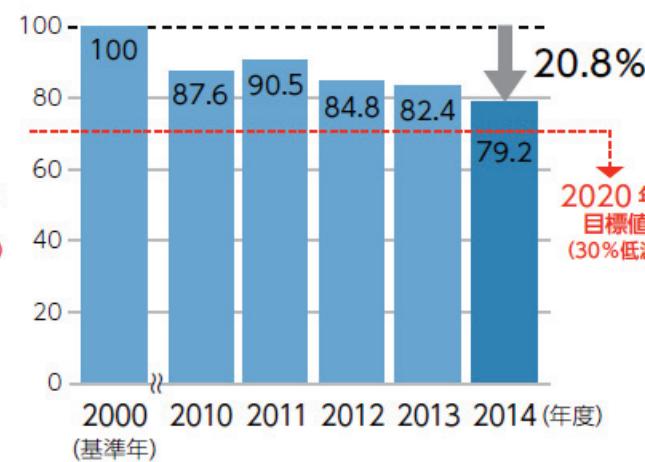


2000年比
-13.3%

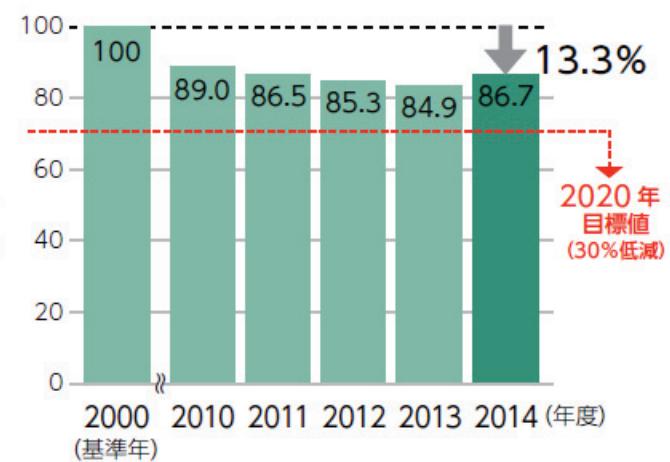
二輪車(g/km当たり)



四輪車(g/km当たり)



汎用製品(kg/1時間当たり)



気候変動情報の把握と開示

★ 「GHGプロトコル・イニシアティブ」はWRIとWBCSDが共催にて概算方法を定義)

GHG(温室効果ガス)

CO₂

CH₄

N₂O

HFC₅

PFC₅

SF₆

Scope3
その他の排出
(上流)

カテゴリー 1
購入した
製品・サービス

カテゴリー 2
資本財

カテゴリー 3

Scope1・2に含ま
れない燃料・工社
-関連の活動

カテゴリー 4
輸送・流通
(上流)

カテゴリー 8
リース資産(上流)

カテゴリー 7
従業員の通勤

カテゴリー 6
出張

カテゴリー 5
事業から発生
する廃棄物

Scope2
間接排出

購入電力
・蒸気など

Scope1
直接排出

企業の施設

企業の車両

Scope3
その他の排出
(下流)

カテゴリー 9
輸送・流通(下流)

カテゴリー 10
販売した
製品の加工

カテゴリー 11
販売した
製品の使用

カテゴリー 12
販売した製品
の処理

カテゴリー 15
投資

カテゴリー 14
フランチャイズ

カテゴリー 13
リース資産(下流)

企業活動 の上流

企業活動

企業活動 の下流

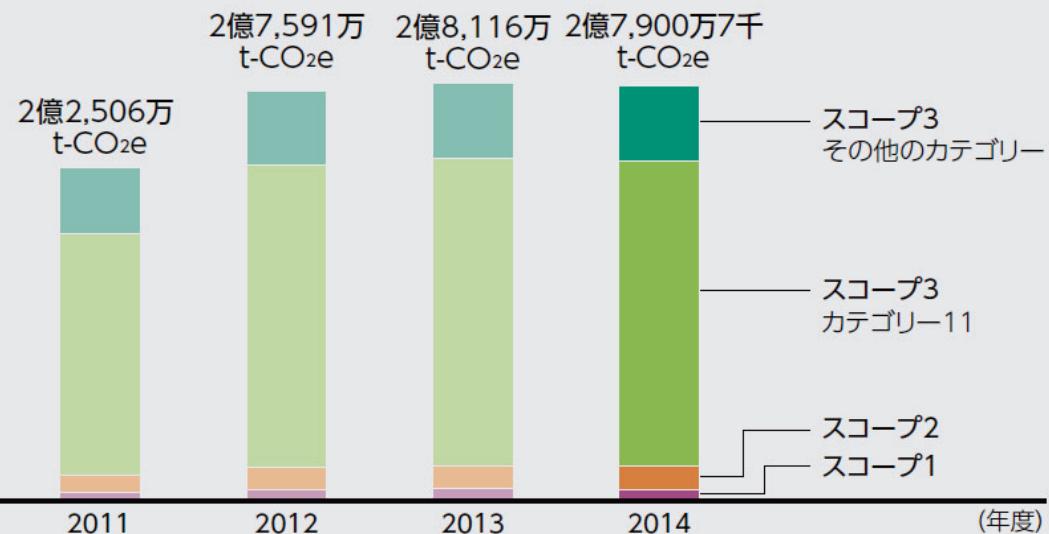
**GHG算定・報告のデファクトスタンダード「GHGプロトコル・イニシアティブ」は、
3範囲(スコープ)に区分して排出総量を把握・計上する**

2014年度温室効果ガス総排出量

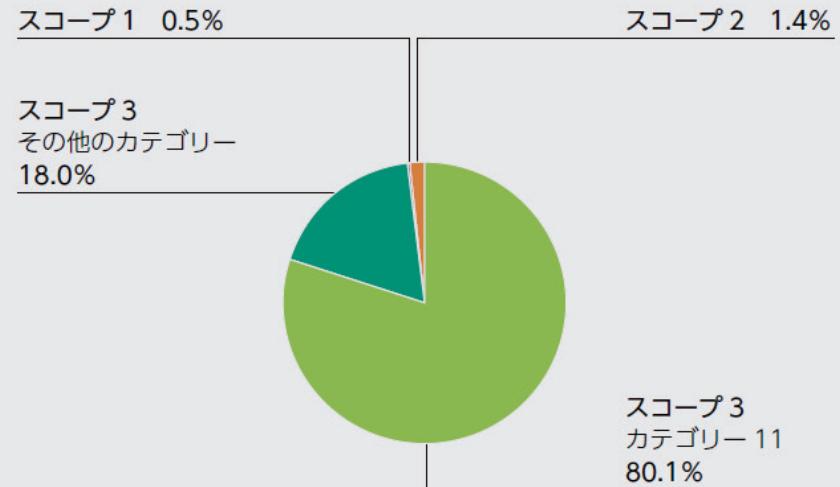
● Honda のバリュー・チェーン全体における温室効果ガス排出量

		2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
	Hondaのバリュー・チェーン全体の排出（スコープ1・2・3の合計）	2億2,506万 t-CO ₂ e	2億7,591万 t-CO ₂ e	2億8,116万 t-CO ₂ e	2億7,900万7千 t-CO ₂ e
内訳	企業活動による直接排出 (スコープ1)	124万 t-CO ₂ e	141万 t-CO ₂ e	141万 t-CO ₂ e	137万6千 t-CO ₂ e
	エネルギー利用による間接排出 (スコープ2)	296万 t-CO ₂ e	354万 t-CO ₂ e	380万 t-CO ₂ e	386万4千 t-CO ₂ e
	Hondaの企業活動による排出 (スコープ1・2合計)	420万 t-CO ₂ e	495万 t-CO ₂ e	521万 t-CO ₂ e	524万 t-CO ₂ e
	製品の使用による排出 (スコープ3・カテゴリー11)	1億9,588万 t-CO ₂ e	2億2,595万 t-CO ₂ e	2億2,814万 t-CO ₂ e	2億2,354万2千 t-CO ₂ e
	その他の排出 (スコープ3・他のカテゴリー)	2,498万 t-CO ₂ e	4,501万 t-CO ₂ e	4,781万 t-CO ₂ e	5,023万 t-CO ₂ e
	その他の間接排出 (スコープ3合計)	2億2,086万 t-CO ₂ e	2億7,096万 t-CO ₂ e	2億7,595万 t-CO ₂ e	2億7,376万7千 t-CO ₂ e

2011年度～2014年度 温室効果ガス排出総量の推移



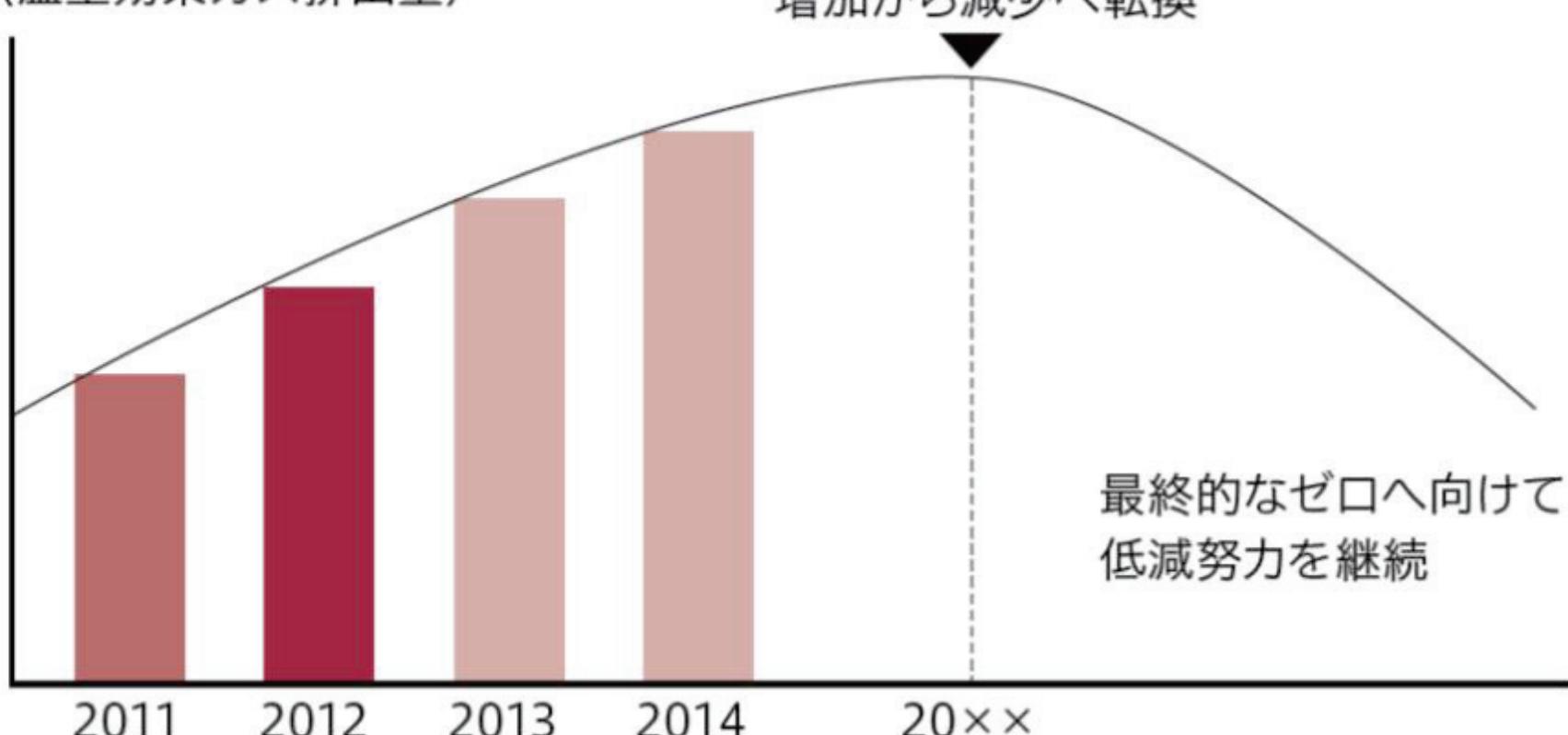
2014年度 温室効果ガス排出総量の内訳



2014年度温室効果ガス総排出量

● Honda のバリュー・チェーン全体における温室効果ガス排出量

〈温室効果ガス排出量〉



Hondaの温室効果ガス排出総量 推移イメージ